

総事業費 4600億円 ハツ場ダム本体工事の中止を

大門みきし参議院議員

ダム事業の抜本的見直しを提言



ハツ場ダム本体建設予定地で説明を聞く大門参議院議員（左端）ら。03年9月8日。

水没移転地は地すべり地帯 県議会でも追及「県独自の調査・対策を」

ハツ場ダム建設によって水没する住民が移転する地域は、浅間山の噴火による岩石が積もった地形。地すべりの危険地帯です。国交省は「地すべり対策をするから大丈夫」としています。しかし、住民や専門家が地滑りの危険があると指摘し、国交省が「大丈夫」としていた奈良良・大滝ダムでは、完成後の試験湛水をはじめたところ地滑りが発生。住民は「いまま仮設住宅暮らしを余儀なくされています。この例をみても、国交省の「大丈夫」は信用できません。今年3月の群馬県議会では、日本共産党県議団が「計画見直しで地すべり対策が所は増えたが、工費は大幅に削減。これで本当にしっかりした対策になるのか」「国まかせでなく、県として独自の調査と対策を」と追及しました。

大門さんと一緒に、群馬県民の切実な願いを国政につなぐため、全力でがんばっています



日本共産党国会議員団群馬事務所長（参院・群馬選挙区予定候補）小笠原しんぺい

治水でも利水でもダムは不要

小泉自公政権は、総事業費4600億円のハツ場ダム（群馬県長野原町）をはじめ、273か所のダム建設を推進しています。しかし、洪水対策などの治水面でも、水道用水の確保などの利水面でも、その多くはすでに目的そのものが破たんしています。ハツ場ダムでも事情は同じ。国土交通省はハツ場ダム建設の目的の一つに、「東京、埼玉、千葉、茨城、群馬の1都4県の都市用水の確保」をあげていますが、首都圏の水需要はここ10年、横ばいで推移し、人口は2015年をピークに減少して行く予測されています。治水面ではどうでしょうか。国交省はあいかわらず57年前前のカスリン台風を例に、「カスリン台風が再来し、利根川が破壊すれば210万人、33兆円の被害が出る」としていますが、森林も豊かになり、河川改修も進んだ今、戦争直後のはげ山や荒廃した国土の条件のもとで起こった災害がそのまま当てはまるものではありません。大門みきし参議院議員が事務局長をつとめる「日本共産党国会議員団ダム問題プロジェクトチーム」は、01年7月、次のような、無駄と環境破壊のダム事業の抜本的な見直しを求める「6つの提言」を発表しました。

- ① 目的を失ったダムはただちに中止し、必要な代替策と地域振興をはかる。
- ② 森は天然のダム：自然環境の保全を優先する。
- ③ 河川改修や森林保全の治水対策をすすめられる支援策の強化を。
- ④ 住民の負担を明らかにし、最優先で住民の健康を守る。
- ⑤ 計画段階から住民が参加する「河川事業評価制度」を創設する。
- ⑥ 政治家の利権・癒着構造にメスを入れる。

「ダムいらぬ」が流れに

昨年、水資源機構の戸倉ダム（片品村）が中止となり、群馬県営・倉沢ダムの建設が凍結されました。戸倉ダムは、大口利水者の埼玉県をはじめ、東京都、千葉県も相次いで利水からの撤退を表明し、環境面でもクマタカ保護のために計画の抜本的見直しが必要になるなど、建設をめぐる環境が大きく変化していました。倉沢ダムの凍結を決めた小寺群馬県知事はその理由として、①きびしい財政状況、②カスリン台風以来大きな被害が出ていない、③ここ数年水需要が伸びていない、などの点を上げました。いずれも、住民運動や県議会での日本共産党の追及を事実上認められた形です。「無駄なダムはいらぬ」が、さらに大きな流れになってきました。

ハンセン病療養所（草津町）を訪問



大門みきし参院議員らは4月4日、群馬県草津町の国立ハンセン病療養所栗生楽泉園で、日本共産党栗生支部の人たちと懇談、特別病室「重監房」跡を訪れました。懇談には笹（こだま）雄二支部長らが出席。入所者の高齢化がすすむ中で医療・看護体制をいっそう充実させていく問題や、楽泉園の将来構想などについて意見を交わしました。その後、一行は雪の降る中、納骨堂に献花、「重監房」跡を視察しました。